

令和5年度第5回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和6年9月21日（土） 10時～12時

テーマ：タヌキモとさまざまな水草を観察しよう

場 所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター野外施設「いきもののにわ」および研修室

案 内：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

内 容：霞ヶ浦には、かつては多くの水草が生息していましたが、現在は、絶滅危惧種としてわずかに残っている種もありますが、そのほとんどが消滅してしまいました。

霞ヶ浦環境科学センターの野外施設である「いきもののにわ」（ビオトープ）には、霞ヶ浦に生息していた水草を育成し、自然観察や環境教育に利用できるようにしています。この観察会では、これらの水草を観察し、霞ヶ浦の環境を考えるきっかけとします。特に食虫植物のタヌキモの仲間を顕微鏡など観察し、その不思議な形や暮らしを探ります。

参加者：27名（大人12名、子ども15名）

担当職員：5名

パートナー：6名

結 果：この観察会では、センター敷地内の「いきもののにわ」周辺で、水草の観察を行いました。水草とは、浮遊植物（根を張らず水に浮いている植物）、沈水植物（水中に沈んでいる植物）、浮葉植物（根を土中に張り葉を水面に浮かべている植物）、抽水植物（水中から茎や葉を水上に出している植物）の4つの生活形をもつ植物をいうことが多いですが、今回は、湿性植物（湿ったところに生える植物）を含めて水草の観察を行いました。

プリントには、34種の植物のリストを掲載しましたが、このうち17種が絶滅危惧種に指定されています。いかに水草が絶滅の危機に瀕しているかがうかがえます。

観察会の後半では、タヌキモの仲間であるイヌタヌキモについて観察しました。食虫植物であるイヌタヌキモは、ミジンコなどを捕らえる葉が変形してできた捕虫のうをもっています。イヌタヌキモを栽培している池からサンプルを採集し、研修室で顕微鏡を使って観察しました。最後にタヌキモが獲物をつかまえる記録動画などを見て、その不思議な生態を堪能

しました。

観察会で観察した主な水草についてその内容を下に示します。

エゾミソハギ・・・ミソハギ科の湿性植物。この季節に湿地で赤紫色の綺麗な花を咲かせる。

似ている植物にミソハギがある。

ミズトラノオ・・・シソ科の湿性植物。虎の尾のごとく紫の穂状の花をつける。

ガマ・コガマ・ヒメガマ・・・ガマ科の抽水植物。ガマのなかま3種を比べながら観察した。

フランクフルトソーセージの様な穂と雄花のついた跡の間に隙間があるのがヒメガマ、ないのがガマとコガマ。ガマとコガマは大きさを区別するが、紛らわしい場合は花粉の形を調べる。4つの花粉が連結しているのがガマ、1個ずつ離れているのがコガマ。

ショウブ・・・ショウブ科の抽水植物。ショウブというと普通アヤメ科のハナショウブを連想する人が多いと思うが、端午の節句に菖蒲湯に使うのはこのショウブ。ハナショウブと葉は似るが、いい香りがして、花は目立たないこん棒状。

コウホネ・ヒツジグサ・・・スイレン科の浮葉植物。コウホネは抽水植物になる。両種とも尾瀬の湿原にもある植物（尾瀬ではオゼコウホネ）。コウホネは抽出葉と沈水葉の違いを観察した。ヒツジグサは、未の刻（午後1時から3時）に花が咲くのでこの名前がある。

アサザ・ガガブタ・・・ミツガシワ科の浮葉植物。両種とも花は午前中に咲いて午後少しぼんでしまう一日花。アサザは10数年前から霞ヶ浦では激減した。

ウキクサ・コウキクサ・・・サトイモ科の浮遊植物。1枚の葉から複数の根が出ているのがウキクサ、1本の根が出ているのがコウキクサ。

ミズアオイ・・・ハス田でよく見られるが、除草剤などの使用で激減した。花を見ると雄しべが6本あり、そのうち5本が黄色で1本が目立たない黒紫色。黄色い雄しべは虫を引き寄せるためのおとりになり、虫にとって魅力のない黒紫色の雄しべで確実に受粉を行うという。

タコノアシ・・・タコノアシ科の湿性植物。河川敷などの湿地で、工事や増水などのかく乱があると発生する。秋に紅葉すると、果実の様子がタコの足を連想させる。

オモダカ・・・オモダカ科の抽水植物。矢じり型の葉が特徴。仲間に細長い葉のヘラオモダ

カやや丸い葉のサジオモダカもある。

ヒルムシロ・・・ヒルムシロ科の浮葉植物。ヒルムシロ科の植物は沈水植物が多いが、ヒルムシロは普通葉を水面に浮かべる浮葉植物。

トチカガミ・・・トチカガミ科の浮遊植物。葉の裏に特有の浮袋をもっているが、葉が水上に突き出ると浮袋がなくなる。

マツモ・・・マツモ科の沈水植物。水槽の水草としてよく使われる植物。

フジバカマ・・・キク科の湿性植物。秋の七草のひとつ。乾燥させるとクマリン臭のいい香りがする。

デンジソウ・・・デンジソウ科の抽水植物。浮葉植物の形もとる。シダ植物。四葉のクローバの様な葉が田の字に見えるのでデンジソウという名がついた。

ジュンサイ・・・ジュンサイ科の浮葉植物。葉に切れ目がなく、盾状についているので、ほかの植物と区別できる。若い葉はジュンサイ特有のヌルヌルがある。

ヒシ・・・ヒシ科の浮葉植物。水面から持ち上げて観察すると、葉のつけ根にある浮袋、花が終わって膨らみ始めた若い果実などが観察できた。

ササバモ・・・ヒルムシロ科の沈水植物。ヒルムシロ科の花をササバモで観察した。花は水面から短い棒状に突き出す。

ハッカ・・・シソ科の湿性植物。外来のハッカの仲間がしばしば湿地にはびこっているが、ハッカは日本に自生する植物。大変いいハッカ臭がする。

オニバス・・・スイレン科の浮葉植物。県内では野生のオニバスはほぼ見られなくなった。葉の表裏のびっしり生えたトゲ、紫色の葉の裏などを観察した。

マコモ・・・イネ科の抽水植物。霞ヶ浦ではやや穏やかな河口付近や蓮田にみられる。アメリカの近縁種は果実がワイルドライスと呼ばれお祭りなどで使われるという。非常に有用な植物で、葉でこも（農作業の用具）を編んだり、家畜のえさにしたりする。

イヌタヌキモ・・・タヌキモ科の沈水植物。食虫植物。葉についた袋はミジンコなどのプランクトンをとらえる捕虫のうである。採集して研修室で顕微鏡を使って観察した。

第5回霞ヶ浦自然観察会



いきもののにわで観察開始



3種類のガマ類の違いを観察



きれいに花が咲いたガガブタを観察



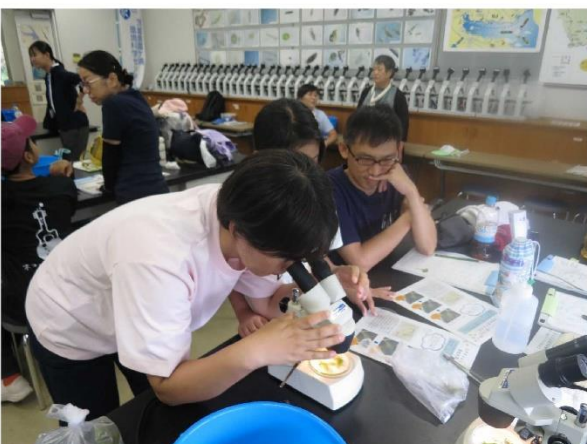
タコノアシを観察



ヒシを観察



イヌタヌキモの池でサンプルを採集



顕微鏡を使ってイヌタヌキモの捕虫のうを観察



モニターでイヌタヌキモを観察